

【熊本 SJCD 例会 抄録】

演題 「ブラキシズムを伴う咬合不調和患者に アンテリアガイダンスを施した症例」 ～A case of performed Anterior guidance to a occlusal disharmonious patient with Braxism ～

演者名 長野靖弘

日付 2014年1月28日

keywords

1. アンテリアガイダンス
2. 臼歯部の離開
3. 顎運動の習慣付け

アンテリアガイダンスは顎運動の舵取りの役目をする。臼歯部が干渉を起こすと、前歯部は非接触となり舵取りができない。また、前歯の適切なガイドがなければ臼歯部は機能を失い顎関節には負担が及ぶ。

患者は47歳女性、2010年5月26日、左下7のインレー脱離、起床時顎がだるい、頬粘膜をよく咬む、気づくと下顎が前に出ているという主訴で来院。

顎関節の症状としては、開口障害はないものの、左右とも圧痛とクリックがあり、周囲筋の触診時の圧痛はみられなかった。食事の時にギーギー音がするという訴えもあった。

以前より歯ぎしりが強くナイトガードを作った既往がある。咬合調整を行ったものの、周囲筋の過緊張が増してきたので、アキシオグラフにて精査、また、偏心運動時の臼歯部の離開度合を咬合器上で後方から観察した。

これらにより問題点として、アンテリアガイダンスの消失による臼歯部の離開不足、咬頭干渉、オクルーザルテーブルの拡大と面接触、ブラキシズムを伴う口腔周囲筋の過緊張により顎位及び顎運動が不安定、というのが挙げられた。

治療計画としては、正確なアンテリアガイダンスの確立による適切な臼歯部の離開、咬合圧を歯の長軸方向へ向ける、適正なオクルーザルテーブルとポイントセントリック、顎位の安定と顎運動の習慣付け、とした。

まずは、コンポジットレジンにてアンテリアガイダンスの付与、臼歯部にプロビジョナルを装着し咬合調整、TMJ ステアブルガードで咬合調整し同調を確認した。

アンテリアガイダンスがなくても欠損がなかったのは、左側だけでも顆路角が $53^\circ$ であったため臼歯離開に役立ち、歯が保存できていたものと思われる。

治療の途中ではあるが、これらにより、当初繰り返した充填物や天然歯のチップング、口腔周囲筋の過緊張による不定愁訴もほぼ消失した。適正なアンテリアガイダンスの確立はブラキサーにおいて有効である。また、顎位の安定と顎運動の習慣付けのためには、TMJ ステアブルガードが不可欠であると考えられる。

現在、MTM 期間中であるため、TMJ ステアブルガードを装着できないが、それらの症状は表れていない。習慣付けができていたものと思われる。

諸先生方のご指導お願いします。